

《問い合わせ先》

第十一管区海上保安本部

海洋情報監理課長 中村 均

098-867-0118 (内線 2510)



第十一管区海上保安本部

令和2年7月27日

水路記念日パネル展を開催します

～海を知るための技術～

明治4年（1871）9月12日に、日本が水路測量と海図作製を開始しました。この日を「水路記念日」としており、今年で149回目を迎えます。第十一管区海上保安本部では、水路記念日に合わせ、沖縄美ら海水族館及び沖縄県立図書館において、「海を知る」と題して海洋調査技術などを紹介するパネル展を開催します。

1 開催期間

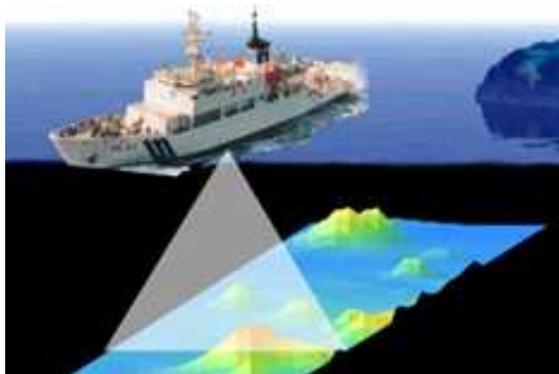
- ① 令和2年8月14日（金）～9月23日（水）
- ② 令和2年9月 2日（水）～9月22日（水）

2 開催場所

- ① 沖縄美ら海水族館出口付近
- ② 沖縄県立図書館3階展示エリア

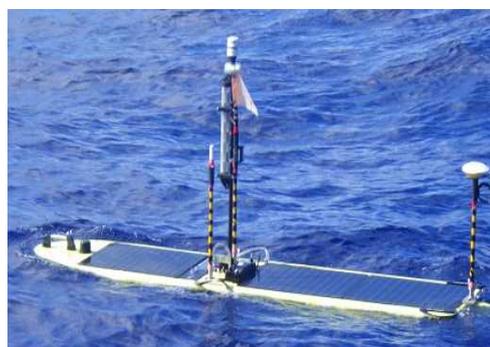
3 主な展示内容

主な調査機器の紹介パネル



船による測量の紹介

音波を使って水深を測る。船から複数の音波を出して面的に調査を実施。



海のドローンによる調査の紹介

動力は波の上下、電力はソーラーパネルから供給し、長期間無人で、海の流れ、風、波浪等の観測が可能。

【参考】

○水路記念日について

9月12日は、海上保安庁海洋情報部（旧水路部）創立の日です。

明治4年（1871年）に当時わが国の緊急課題であった日本沿岸の安全のため、海図づくりを使命とした兵部省海軍部水路局が誕生しました。勝海舟らとともに長崎海軍伝習所においてオランダ式の航海・測量術を学んだ初代水路部長の柳檜悦（やなぎ ならよし）少佐は、日本人のみでの測量を精力的に推進しました。

東京築地の海軍兵学寮（後の兵学校）の一室で、現在の水路業務の基礎がスタートし、日本人による近代的な海図づくりが開始されました。明治5年国内第一号の海図「陸中國釜石港之圖」が刊行されました。

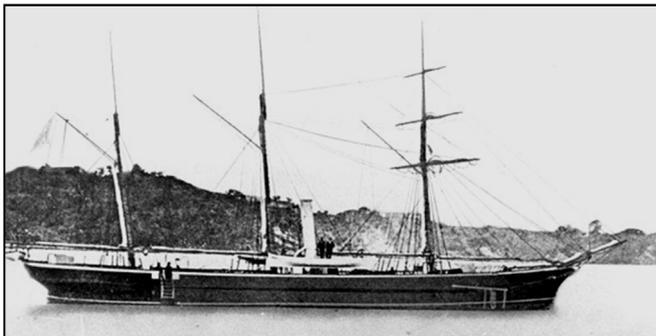


柳檜悦少佐【初代水路部長】



海図第一号「陸中國釜石港之圖」
(明治5年)

- 明治 5年 国内第一号の海図「陸中國釜石港之圖」刊行
- 〃 6年 南西諸島の測量実施
- 〃 7年 那覇港（19号）、運天港（18号）の海図刊行



南西諸島を測量した
「第一丁卯（だいいちていぼう）」